

〔11〕 こんなんじゃ死なれへん

～消費者にとってより良い家族葬とは～

NPO法人消費者情報ネット 葬儀調査グループ

(発表者) 酒井佐代子 ・ 石原 純子 ・ 大本 史子

はじめに

NPO法人消費者情報ネット（コネット）は2007年から葬儀に関する消費者トラブルの実態や消費者の意識を知るために様々なアンケート調査や実態調査を行って、その結果をまとめ「消費者が望むより良い葬儀とは」Ⅰ・Ⅱという冊子を発行しました。

葬儀に関しては最近多くのマスコミにも取り上げられ、これまでになく多くの業者も参入し、社会の関心も非常に高くなっています。しかし、自分の葬儀をどのようにすればよいか、どのような情報を頼りにすればよいのか分からないという声が多くあり、今回はこれまでの調査の中で特に消費者の関心の高かった「家族葬」について、消費者はどのように思っているのかを調査しました。

◆調査の概要

1. 目的

消費者は「家族葬」についてどのように思っているか

2. 調査方法・対象 : コネット会員・消費者団体会員・一般消費者

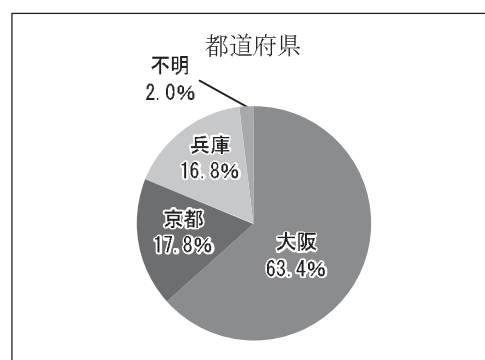
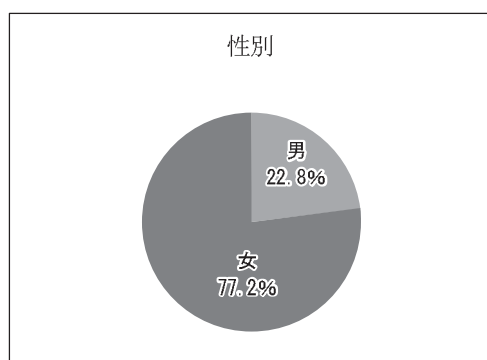
調査方法 : インターネット・FAX・手渡し

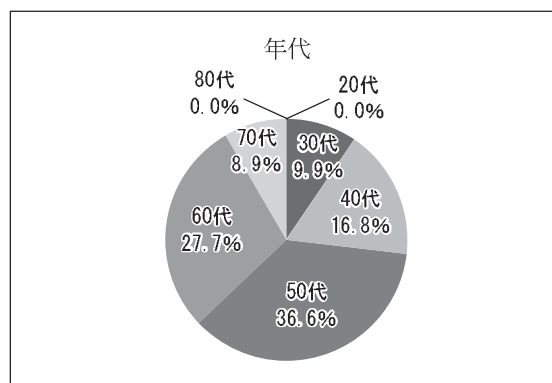
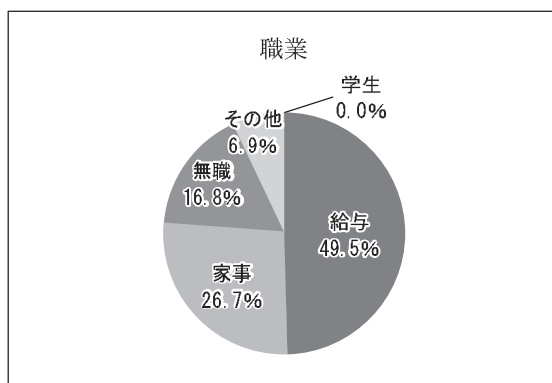
調査期間 : 2010年8月16日～31日

3. 調査項目

- ・家族葬に必要なものはなんでしょう
- ・家族葬の列席者数は
- ・家族葬の費用について
- ・葬儀での家族葬の選択について
- ・家族葬についての自由意見

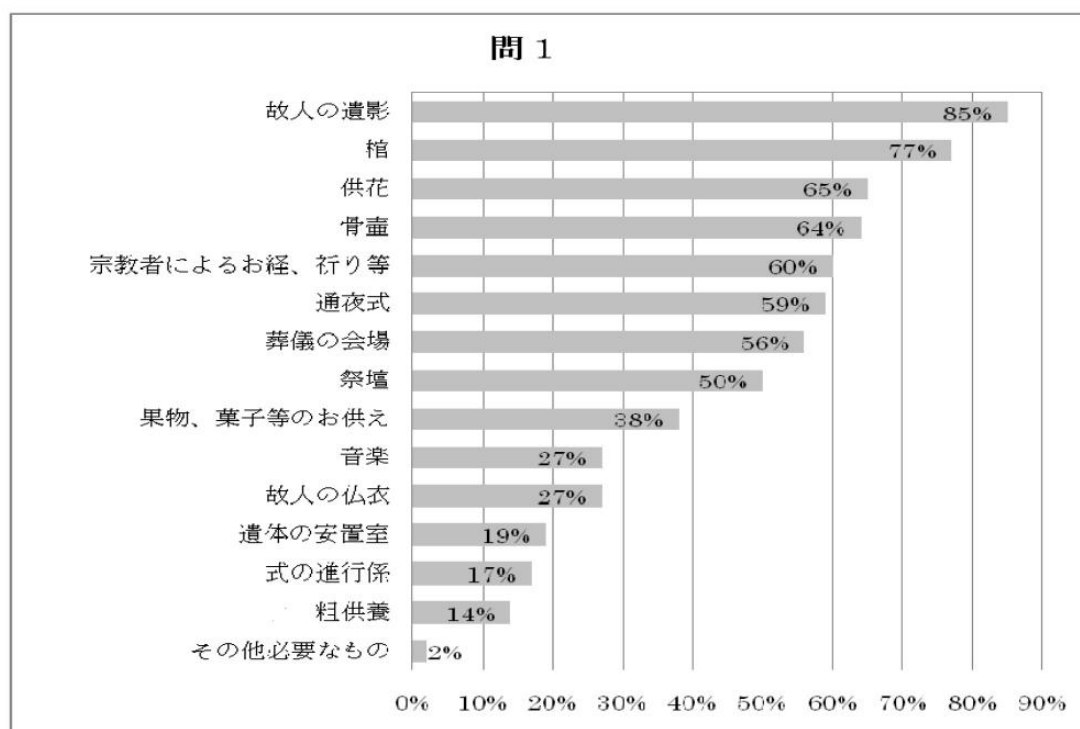
4. 回答者属性





◆アンケート結果

問1. 家族葬に必要なものすべてに○をつけてください (複数回答)

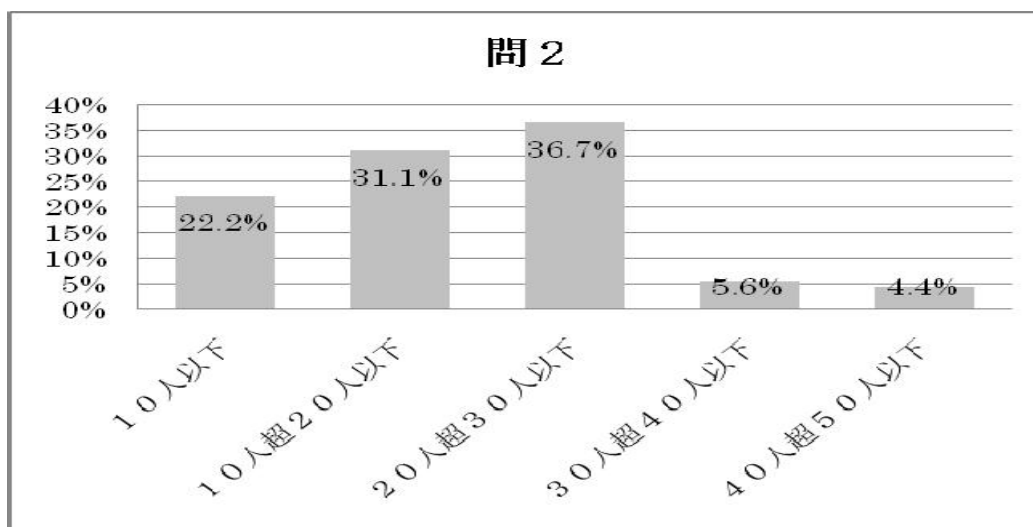


「故人の遺影」「棺」「供花」「骨壺」と故人をしのぶ商品が必要と考えられている。そのほか「宗教者によるお経・祈り」「通夜式」「葬儀の会場」「祭壇」一般の葬儀に必要なものの回答が多い。

また

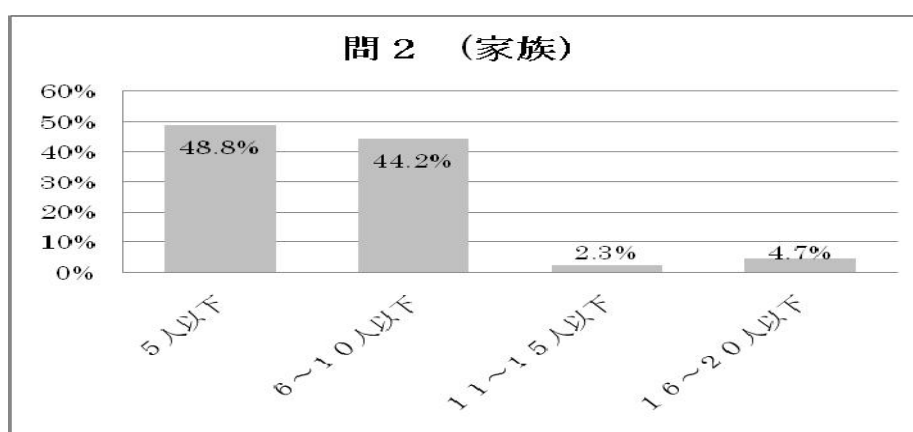
- ・参列者へのお礼の品、個人的には自分の愛用品や蔵書を失礼にならない程度でもらってほしい。
- ・各家族で必要なものを考えればいい
- ・写真集・寄稿 などの回答があった。

問2. 家族葬に参列してほしい人数



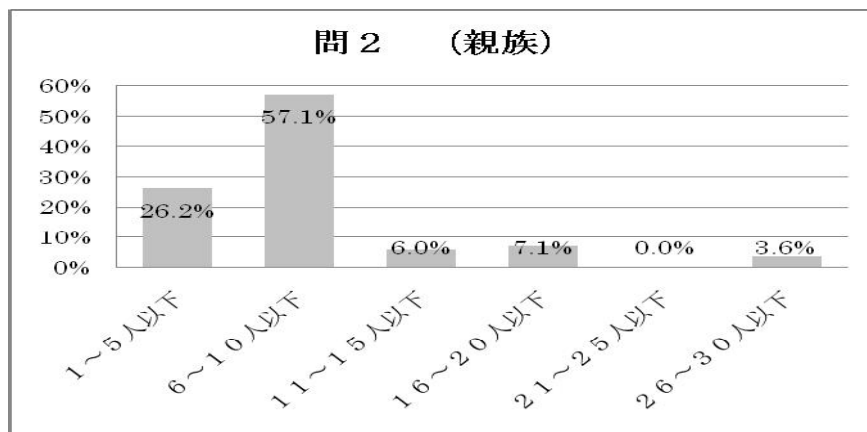
家族葬に参列してほしい人数は家族、親族、友人・知人を合わせて30人までが90%となった。消費者の気持ちとしては「家族葬は小規模な親しい人たちの見守りの中で葬儀が執り行われてほしい」と望んでいることが分かる。

家族葬に参列してほしい家族の人数



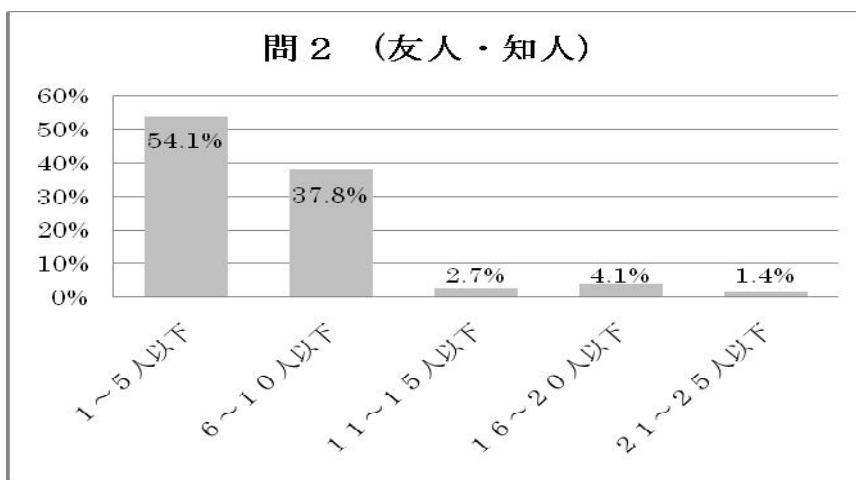
参列してほしい家族の人数は50代、60代中心のためか、10人以下が93%を占め、子・孫を含む3世代の様相が伺える。

家族葬に参列してほしい親族の人数



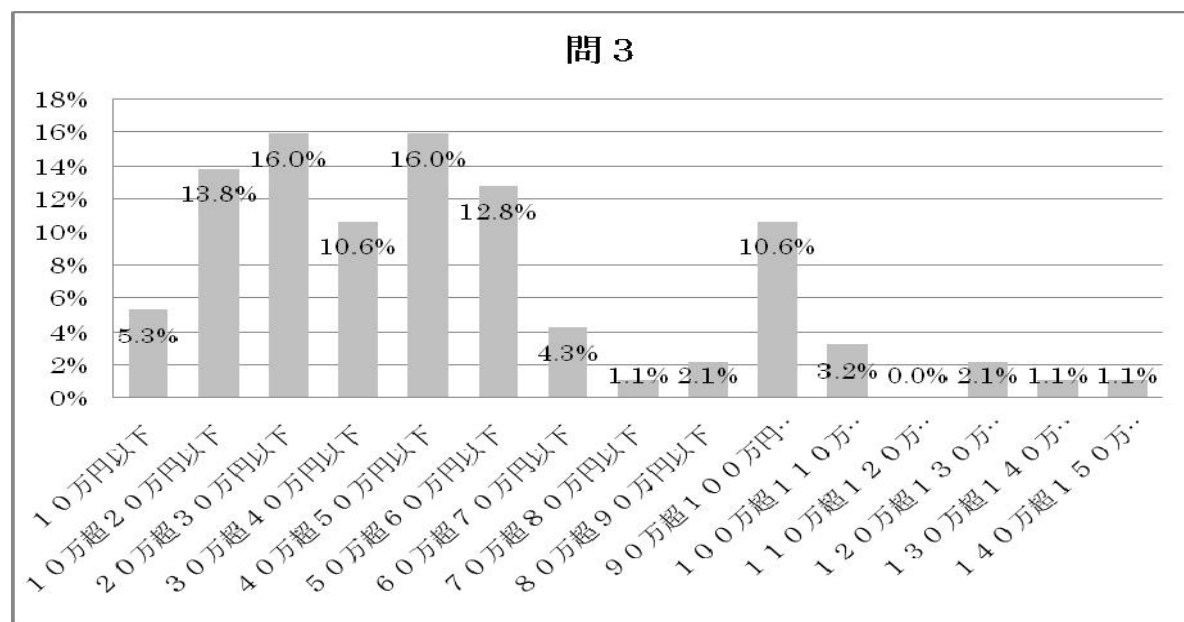
参列してほしい親族は6～10人以下が57.1%とまだ親族との交流が残っている様子だが、1～5人が26.2%は核家族化で交流が希薄になってきている人が多いということなのか、生前のお付き合いの大変さを実感しているのかもしれない。

家族葬に参列してほしい友人・知人の人数



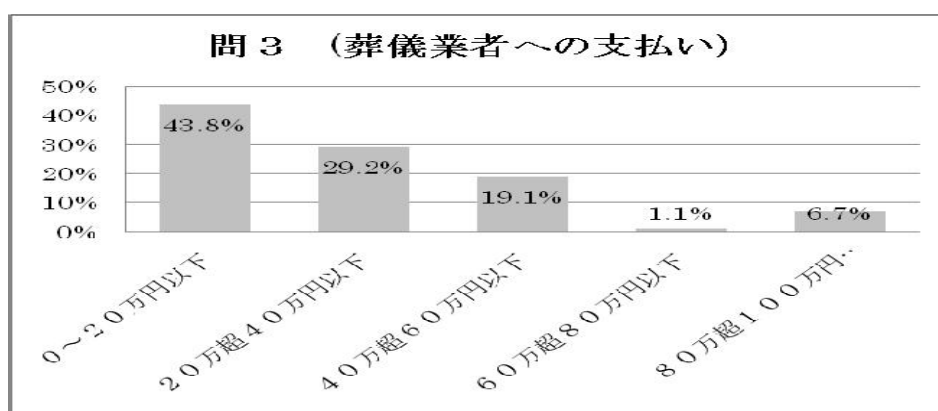
知人・友人を家族葬の範疇に考えている人が多い。業者のアンケートの聞き取りでは家族葬の範囲は亡くなった方の家族・親族のみに限ると認識されていたようだが、利用する消費者側は「遠くの親戚より近くの他人」と親しい友人に知らせ、送ってほしいと思っている人が多いとわかる。

問3. 家族葬の費用はいくらぐらいが適当と考えますか。



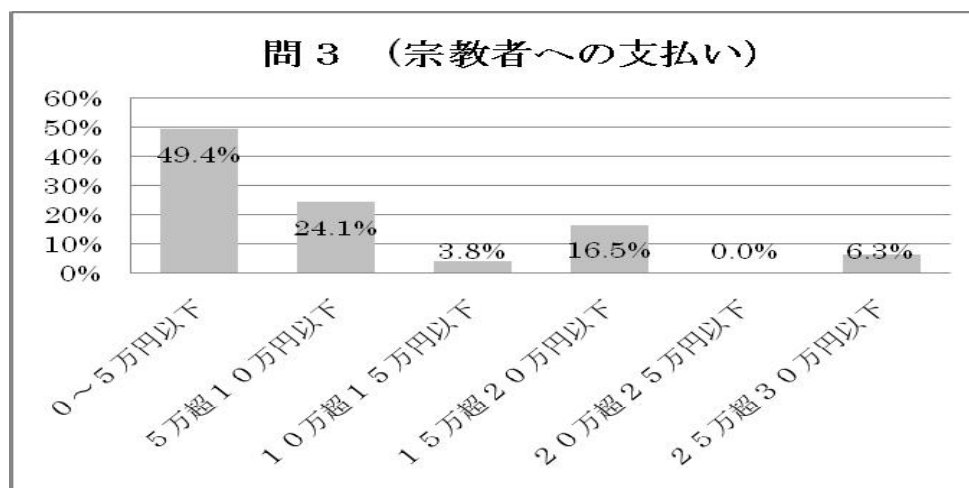
通常の家族葬で考えられる最低費用として葬儀業者の試算例では「親族10人・一般参加0人」でも平均40～50万円かかるという結果だった。今回の調査では特に全体の費用に関して訪ねてはいないが、集計の結果20～30、40～50万円がそれぞれ16%ずつ、10～20万円が13.8%、50～60万円が12.8%などとなっている。平均では50万円となる。

葬儀業者への支払い



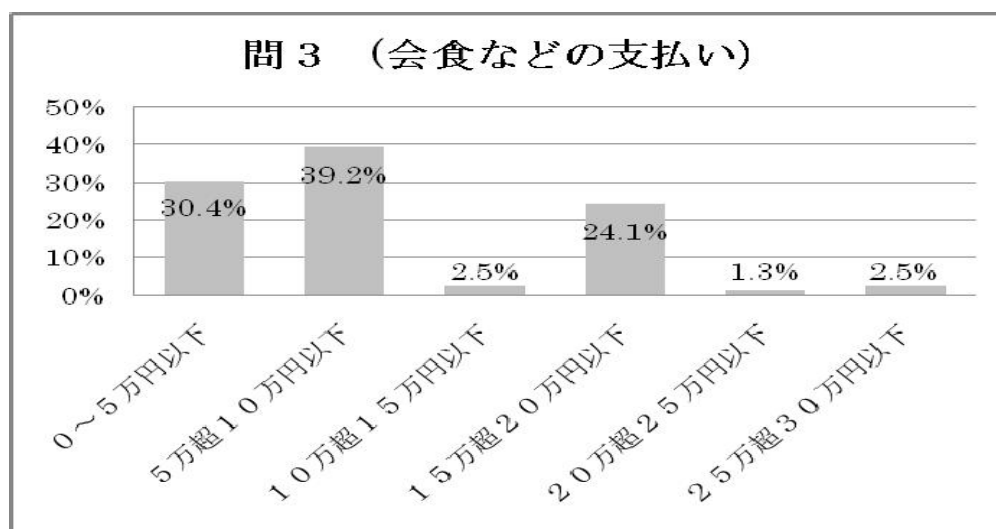
葬儀業者への支払い金額として20万円以下が43.8%、20～40万円までが29.2%、40～60万円以下が19.1%で費用を低く考えている傾向が見える。

宗教者への支払い



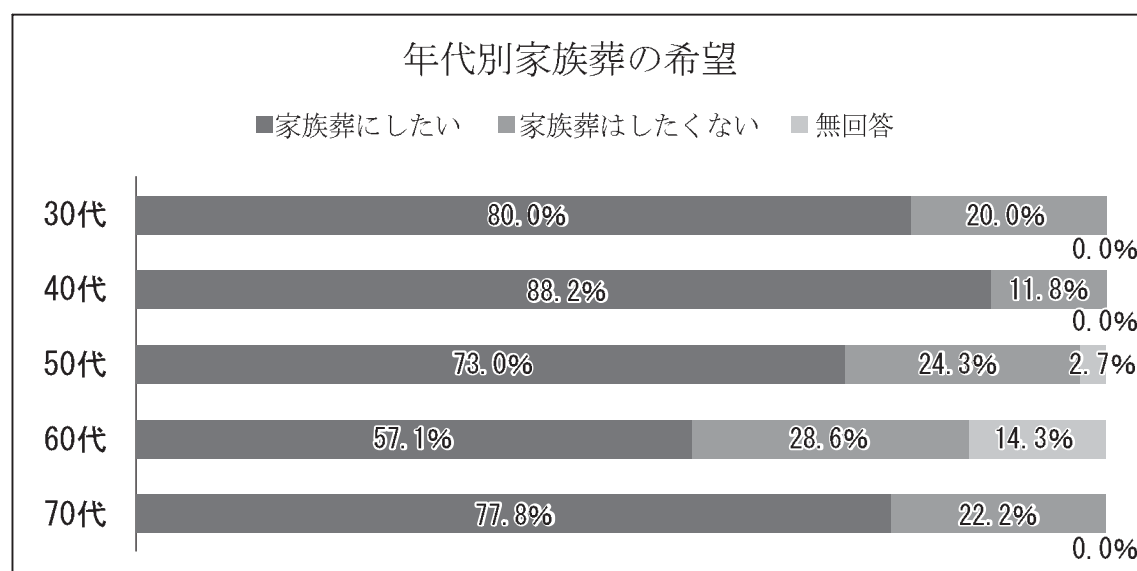
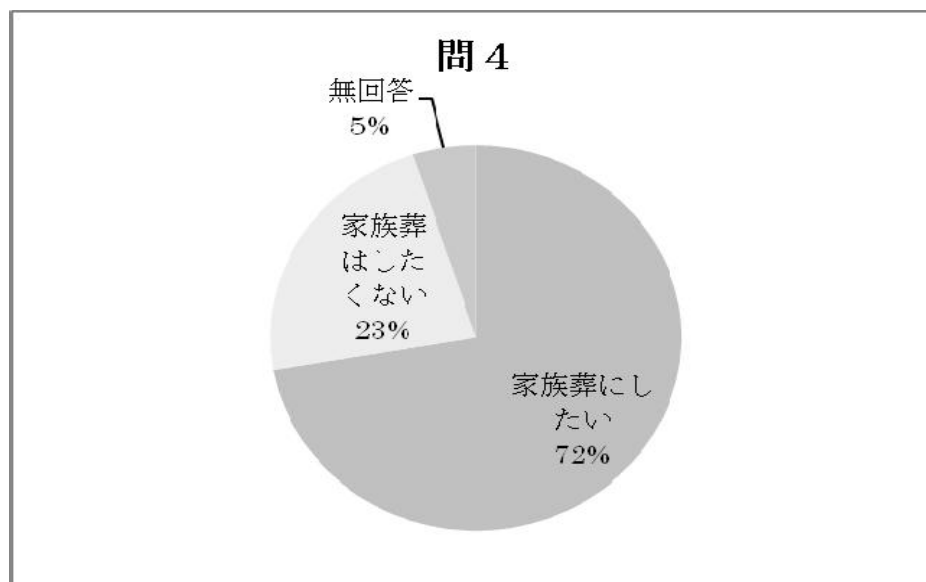
宗教者に払う費用では問1で家族葬に必要なものとして60%が宗教者によるお経やお祈りを望んでいるにもかかわらず、非常に低い金額を想定していることがわかった。実際の戒名料込みの平均が30万円から50万円といわれていることとは乖離しているようだ。

会食などの支払い



5万円以下が30.4%、5～10万円が39.2%となっている。人数に比例すると考えると一人当たり3,000円に満たない額を想定していると考えられる。時代を反映して非常に地味な費用設定となっている。

問4. ご自身、ご家族等の葬儀を家族葬にしたいと思いませんか



今回の調査による特色として、全体の結果は「家族葬にしたい」が72%、[家族葬はしたくない]が23%である。

年代別では30代は80%、40代は88.2%、50代は72%、60代は少なく57.1%、70代は77.8%になっている。60代は自分や家族のこと、親のことなど葬儀内容を真剣に考えるため世間体や無難にとの思いが強いのではないかな。

◆アンケート結果から見てきたもの

2005年から実態調査を行ってきたが、2009年の「自ら望む葬儀」調査では人任せの部分も見受けられ、普通といわれるごく一般的な葬儀を望む傾向がみられた。その年の110番では家族葬の問い合わせが増え、2010年の今回の調査では5年を経て消費者の本音として、静かに親しいものだけで葬送が執り行われることを望んでいるのがはっきり出ていた。

ただ、「家族葬」の定義が消費者の中ではっきり形作られてはいない。しかし親族以外の会葬者が全くいないものではなく、形式的な親族ではない、親しい親族、友人・知人たちの温かい見守りの中での葬送を家族葬と考えている。今までの葬儀の小規模版ということだけではないアットホームな旅立ちを想定しているようだ。

おわりに

葬儀を取り巻く状況は著しく変化してきています。毎年死者が110万人を超える、超高齢社会といわれるようになって、いろいろなマスコミにも取り上げられ、「家族葬」・「自然葬」・「直葬」などの言葉をみる機会も増えてきました。でもその言葉の内容を理解している人は少ないと思われます。

死は突然おとずれ、家族や親族の死をむかえて初めて経験する非日常のなかで正確な判断ができず消費者は葬儀業者や葬儀を経験した親族や周りの人の言われるまま葬儀を行ってきました。まして自分の葬儀をどのようにしてほしいかなど伝えることなど考えられませんでした。

長引く不況の影響もあって葬儀は景気などに左右されにくかったものが、大規模な葬儀を反省し、見直す流れが広がってきて、葬儀の形が多様化するとともに、小規模化が進んできています。

これまで機会も少なく、情報を得ることもなかった葬儀に対して消費者も積極的に自分の意見をもって、「家族葬」を含む葬儀そのものを考えるよい機会であると考えられます。

コネットは今後も葬儀に関して消費者へさまざまな情報を発信したいと思います。

